

## 4 令和6年度 小雀小学校 学校経営重点方針

### 試行錯誤と切磋琢磨

今年度教職員に伝えている重点方針を一部抜粋

小雀小として変えないもの最上位ミッション「全ての子ども達に、笑顔と満足の花を咲かせる」ことを大切にしながら「変わらないために変わり続ける」、「心理的安全性」、「社会に開かれた教育過程」にチャレンジしていきたい。子どもも大人もわくわくチャレンジする1年を！！

「子どもに求めることは大人から、教室で求めることは職員室から」を意識したい。子どもが主役であるが、教職員も子どもと共に一緒に輝く存在である。笑顔と満足の花は我々も同様である。「**教師こそ最大の教育環境**」。**変わり続ける教職員の挑戦は必須**である。教職員の笑顔が、子どもの笑顔をつくり、教職員の元気が、元気な学校をつくる。私のやりたい学校経営は、「**思いやりを広げる**」こと。教育基本法にもあるように「生命尊厳や人権尊重」はすべての教育の基盤である。今年度も子どもと職員の「**心理的安全性**」を高め、**全ての子どもの居場所をつくり、教職員の働きやすさと働きがい**を向上させていきたい。**心理的な安全性は責任感とセット**で考えることが効果を生み出す。昨年度の「**社会とのつながり**」前進させ、を社会や生活科、総合的な学習等の教育課程との関係で考えていく。

そのためには、**挑戦、軽微な失敗、試行錯誤が許容される組織、和気あいあいとした中にも前進や向上を目指す切磋琢磨が行われる組織**が必要だと考える。

### 豊かに学び 認め合い 咲かせよう笑顔と満足の花

- ◆ 子どもたちが様々な学習や体験を通して多くの人やものと出会い、豊かに学べる学校づくりを目指します。
- ◆ 人との関わりやつながりを大切に相手意識、目的意識を育て、子どもたちがお互いの良さを認め合い協力する喜びを実感し、共に成長していこうとする豊かな心を育てていきます。
- ◆ 学校・家庭・地域の中で自己有用感や多くの達成感を感じ、夢や希望をもち、なりたい自分に向かって努力し続ける意欲を高めていきます。

### 重点化した資質・能力

- ◆ 夢や希望をもち、なりたい自分や生き方を追求する姿勢
- ◆ 問題を発見し、情報を活用しながら解決していく力
- ◆ 自分の思いや考えを伝え合える力
- ◆ メタ認知 自分を振り返り、理解してよりよく生きる力

### 目指す学校像

- ◆ 子どもたちにとっては、笑顔が溢れ、毎日来たくなる学校
- ◆ 教職員にとっては、働きやすさと共に、働きがいがある学校
- ◆ 保護者にとっては、子どもたちの笑顔のために協力したくなる学校
- ◆ 地域にとっては、子どもたちの笑顔のために応援したくなる学校
- ◆ いつまでもずっと居たくなる学校

# (1) We Love KOSUZUME ～社会とつながる学びの実現～

## ① 社会に開かれた教育課程

### (1) ねらい

○教育資源であるまちの「人・物・自然・文化」を教材として取り入れたり、地域に働きかけたりすることで、子どもたちが学ぶ喜びや充実感を味わい、豊かな人間性や社会性を培う。

○ふるさと小雀を愛し、地域の一員として地域に貢献したり、地域を大切にしようとしたりする実践的な態度を培う。

○よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

### ★今年度の方針

- 職員研修計画に「社会に開かれた教育課程」についての研修を入れ計画的に実施する。
- 「地域材の有効活用」を年間指導計画に位置付け、修正しながら実行していく。
- 総合コーディネーター・地域学校協働本部と相談・連携する。
- 生活科・総合的な学習の研修を実施し、単元構想を5月までに見通す。
- 総合的な学習の時間は、学級単元であっても学年で構想し、学年研で検討していく。学級担任一人で抱えないよう、総合コーディネーター、学年、ハピボラ等で相談に乗りながら実施する仕組みを作る。
- 総合的な学習の学級の成果を一つ下の学年に発表し、イメージをもたせ、つないでいく。
- 幼保小連携を推進し、スタートカリキュラムのPDCA化を行う。
- 社会科等でも地域材を活用する。

## ② 学校運営協議会・地域学校協働活動との連携

小雀愛を育てることが、自己肯定感・自己有用感を育てることにつながります。

学校運営協議会の主議題は、「We Love KOSUZUME」プロジェクトです。学校運営協議会は、「We Love KOSUZUME」の合言葉のもと、共に自分たちの学校を自分たちでつくるという理念を教職員、保護者、地域が共有し、学校づくりに参画する仕組みです。小雀に今ある価値を見つめ直す機会を作り出したり、小雀のまちの課題を子どもたちと考え、解決に向けて活動したりする中で、自分、学校、まちを好きになり、課題解決能力や自己有用感・自己肯定感を高めていきます。具体的には、小雀の魅力発見・まちの課題解決・地域活性化などのプロジェクトが考えられます。このプロジェクトは、その年々の子どもたちの興味や関心から学習が進められるため必ず実施されるものではありません。教員からの活動予定や報告を聞き、地域材や解決方法を一緒に考え「We Love KOSUZUME」の心情を高めていきます。

### ★今年度の方針

- 地域学校協働本部の定例会を月1回実施し、地域材の紹介をしたり、地域と担任をつなぐ活動を行ったりする。人材バンクの更新・活用を進める。
- 学校運営協議会を年4回実施する。「学校における課題」「小雀小の魅力」を発信し、学校応援団を増やしていく。
- 「今年の漢字」の募集及び「日本漢字能力検定」を2月に実施する。
- 大正フェスタに作品出品や社会を明るくする運動の標語など地域に貢献していく。
- 保護者、地域の理解のもと「あいさつ運動」を進める。

## (2) 心理的安全性 ～通訳者たれ～

心理的安全性が、子どもたちの「チームとしての成長」を支えます。よりよい学びにしていくためには「子どもが精神的、情緒的に安定していることが非常に重要」です。いくらよい授業をしようとしても、子どもが精神的に落ち着いていなければ楽しさを感じることもできないし、深い学びにはつながりません。友好的な人間関係が、情緒の安定につながります。子どもの人間関係には、家庭、学校、地域での関係があり、子ども個人の問題ではなく、家庭や、学校、地域を含む学校全体として気を付けなければなりません。

### 学校として気を付けていきたい見方や考え方

#### (1) しないのではなく、できないと思って支援

困っている子どもや職員は、声をだせません。周りの人は、通訳者の役目が求められています。困っている子どもの通訳者となり、子どもと子どもを繋ぎ、関係性をつないでいきましょう。全ての子どもや職員に居場所がある、そんな学校をつくっていきましょう。しないとできないでは、まったく意味が違います。

例えば、宿題を提出しない子がいる。「この児童は、もしかしたら宿題を提出できないのではないか」と考える。

例えば、不登校の児童は、登校したくないのではなく、登校できないのではないかと考える。

#### (2) 困った子は、困っている子

他の児童と比べて、できないところに光を当てるのではなく、その児童が一番光るところに光を当てて役割をもたせましょう。できないところを指摘し、これくらいできなくてはと指導され続けても、子どもは元気がでないし、力を発揮することはありません。

#### (3) 安心・安全な学級経営

心理的安全性の中で、学び合いや関わり合いが生まれる学級づくりを目指します

- ① 人の話を聞くことができる学級
- ② 自分の考えがはっきり言える学級
- ③ 人の心の痛みが分かる学級
- ④ 分からないことを聞き合える学級
- ⑤ 問題をいつでも出し合える学級
- ⑥ 悩みや困ったことを話し合える学級
- ⑦ 一人ひとりの存在感や向上心がある学級

### ★今年度の方針

#### ①困っている子への相談体制と対応

- 児童指導、保護者対応は、一人では抱えずチームで対応する。困っている子の周りには職員は通訳者として子どもに関わる。
- いじめアンケート・YPアセスメント・教育相談を実効性のあるものにする。
- いじめの未然防止、いじめの早期発見につとめ、いじめを発見した場合は、大きくとらえて、小さくまとめる意識で対応にあたる。
- よりよい交友関係を構築するために、いじめを積極的に認知し、背景を見極めながら、声をかけ励ましていく。

## ②人権教育・特別支援教育の推進

- 特別支援教育の視点での学級づくりを進める。ユニバーサルデザインの全学級実践。個に応じた支援。
- 日常の取組の中に人権意識を高まる取組を行う。
- 個別の教育支援計画・個別の指導計画を有効活用する。

## ③年間を通したあいさつ運動

- 児童会発信だけでなく、全職員が年間で意識して取り組む。
- 教職員から積極的に一人ひとりにあいさつや声掛けを行う。コミュニケーションの基本。

## (3) 変わらないために変わり続ける ～改善・成長し続ける風土～

授業改善、学級風土づくり、ICT の活用を3本の柱として、「自分の考えを伝え合えることのできる子を目指して研修や実践をしていきます。近年、「主体的・対話的で深い学び」が推進され、多くの教員が一方向的に教える講義スタイルの授業から、子ども同士のコミュニケーションを増やす授業へとシフトしてきました。「自分の考えを伝え合えることのできる子」を育成するために、授業での対話の質を見直してみましょう。

「主体的・対話的で深い学び」の主体的な学び、対話的な学び、深い学びは全部つながっています。個別に実現するものではありませんが、より充実させるには、対話の質を高めることが求められます。教師の力でいえば、子どもに教えるための技術を磨くことから、ファシリテーターとして子どもを支援する役割へのシフトです。教師の働きかけを意識してみましょう。

### ★今年度の方針

- 学級経営案・自己観察書に自己チャレンジを評価可能なように具体的に記入する。
- 重点研究を通した「自分の考えを伝えることのできる子」の授業デザインの研究
- 全教科領域で、「一部の子だけが活躍する学び」「教師主導の学び」ではなく、「浅くともより多くの子活躍できる学び」に価値があるととらえ、子どもの活躍（話合いや役割）を支援する教師を目指す。
- 「一人も見捨てない」「みんなを大切にしている」姿勢で学年・学級経営に当たる。
- ICT 教育の段階的スキルアップから効果的な活用、探究を目指す授業実践
- 安心して「自分の考えを伝えることができる」学級風土づくり
- 行事でも保護者への見栄えを追求するあまり、習得のみに力が入っていないだろうか。見通しや振り返り、自立解決等、試行錯誤の時間や子ども同士の教え合いによる切磋琢磨の時間などを意識する。